

口蓋化・破擦音化
—16世紀の沖縄語について—

多和田 眞一郎

多和田 (2001)・同 (2002) を受けて、口蓋化・破擦音化 (*/tj/,*/l-ita/,/di/,/ida/) を取り上げて 16 世紀の沖縄語の音声・音韻についての考察を深める。

分析の対象とした資料は、以下のとおりである。用例を示すときには略号を用いることとするので、それも合わせて示す。

- 1) {翻} 語音翻訳 (1501) …『海東諸国紀』付載のハングル資料 2) {玉} たまおとんのひもん (1501) …仮名資料 3) {館} 琉球館訳語 (16 世紀前半成立か) …『華夷訳語』の一つとしての漢字資料 4) {石東} 石門之東之碑文 (国王頌徳碑) (1522) …仮名資料
5) {石西} 石門の西のひもん (真珠湊碑文) (1522) …仮名資料 6) {田 1} 田名文書第 1 号 (1523) …仮名資料 7) {崇} 崇元寺之前東之碑うらの文 (1527) …仮名資料 8) {おも 1} 『おもろさうし』巻一 (1531) …仮名資料 (1709 年 11 月原本焼失。1710 年 7 月再編)
9) {使 1} 陳侃『使琉球録』中の「夷語」(1534) …漢字資料 10) {田 2} 田名文書第 2 号 (1536) …仮名資料 11) {田 3} 田名文書第 3 号 (1537) …仮名資料 12) {田 4} 田名文書第 4 号 (1541) …仮名資料 13) {かた} かたはなの碑おもての文 (1543) …仮名資料
14) {田 5} 田名文書第 5 号 (1545) …仮名資料 15) {添} 添継御門の南のひものもん (1546) …仮名資料 16) {田 6} 田名文書第 6 号 (1551) …仮名資料 17) {やら} やらさもりくすくの碑のおもての文 (1554) …仮名資料 18) {田 7} 田名文書第 7 号 (1560) …仮名資料
19) {使 2} 郭汝霖『使琉球録』中の「夷語」(1561) …漢字資料 20) {田 8} 田名文書第 8 号 (1562) …仮名資料 21) {田 9} 田名文書第 9 号 (1563) …仮名資料
22) {字} 周鐘 等『音韻字海』中の「附録夷語音釈」「附夷字音釈」(1572 頃) …漢字資料
23) {使 3} 蕭崇業『使琉球録』中の「夷語」(1579) …漢字資料 24) {田 10} 田名文書第 10 号 (1593) …仮名資料 25) {浦} 浦添城の前の碑おもての文 (1597) …仮名資料

漢字資料に関して、その音訳漢字の音価推定のために次の四種の辞書類を参考にする。

・『中原音韻』(1324)

二巻。元の周德清の編。主に華北・華中の言葉に基づいた韻引きの字書である。

・『西儒耳目資』(1626)

イエズス会の宣教師ニコラス・トリゴール (Nicolas Trigault 金尼閣) の著したローマ字表記による韻引きの字書で、明末北方漢語の実態を写す資料とされる。

・『東国正韻』(1447-48)

朝鮮王朝世宗時代に申叔舟・崔恒・成三問等が王命により編纂した音韻書である。当時の朝鮮漢字音を反映したものではないとして忌避される傾向にあるが、15世紀の朝鮮で、その漢字がどのような(中国)音を有すると考えられていたかを示すものであって(扱いには慎重であるべきであるが)、その観点からは有用だと考えられる。

・『訓蒙字会』(1527)

朝鮮王朝中宗の時代に崔世珍が著したもので、漢字 3360 字に発音と意味を書き、子供達に教えようとした漢字初歩の学習書である。

それぞれの項目について資料ごとに見ていくが、用例が存在しない場合は、その資料には言及しないこととする(いちいち「用例ナシ」と断ることはしない)。

(1) */ti/

{翻} (1501)

○ci(地) ○khu-ci(口)

ハングルの「t」では現れない。破擦音を示すハングル「c」で表記されている。以下の仮名資料に一貫して現れる「ち」は、これに準じるものと考えられる。つまり、破擦音化していると判断される。

{玉} (1501)

○ちにふして(地に伏して) ○のちにあらそふ人あらは(後に争ふ人あらば)

{館} (16C 前半?)

主な用例は、以下のとおりである。

○姑之(くち、口) ○是止畦的(しちぐわつ、七月) ○達只(たち、太刀) ○密集(みち、道)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ち 之	tʃi	chi	ci'	芝 ci	tsi
止	tʃi	c 'hi, chi	ci'	趾 ci	tsi
只	tʃi	chi	cir?	☆	tsi
宅	tʃai	ç 'e, çe	to'	thaik	tsi
的	tiəi	tie	tjok	的 tjok	ti
結	kie	kie, ki, hi	kjoi'	☆	tʃi ?
集	tsiəi	çie, ça	ccip	cip	tsi

{石西} (1522)

○ちへねんさしきわ (知念佐敷は) ○かうちのあんし (河内の按司)

{おも1} (1531)

○いつこいのち<兵の命> ○おぎもうちに (御肝内に)

{使1} (1534)

主な用例は、以下のとおりである。

○谷之 (くち、口) ○即加撒 (ちかさ、近) ○荅知 (たち、太刀)

○密集 (みち、道)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ち 千	ts 'ien	☆	☆	☆	ʃi
之	tʃi	chi	ci'	芝 ci	tsi
止	tʃi	c 'hi, chi	ci'	趾 ci	tsi
只	tʃi	chi	cir?	☆	tsi
宅	tʃai	ç 'e, çe	to'	thaik	tsi
即	tsiəi	çie	☆	☆	tsi
知	tʃi	chi	☆	☆	tsi
集	tsiəi	çie, ça	ccip	cip	tsi
只	tʃi	chi	cir?	☆	tsi
知	tʃi	☆	☆	☆	tsi

{田4} (1541)

○ちくとの (筑殿)

{かた} (1543)

○ちからをそろへ (力を揃へ)

{添} (1546)

○ちやうらう (長老)

{やら} (1554)

○ちきやら (力) ○ちはなれて (地は離れて) ○こちひら (東風平)

{使2} (1561)

主な用例は、以下のとおりである。

○足止 (つち、土) ○密集 (みち、道)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ち 止	tʃi	c 'hi, chi	ci'	趾 ci	tsi
集	tsiei	çie, ça	ccip	cip	tsi
即	tsiei	çie	☆	☆	tsi
其	k 'i	ki	☆	☆	ʃi
宅	tʃai	ç 'e, çe	to'	thaik	tsi
只	tʃi	chi	cir?	☆	tsi
之	tʃi	chi	ci'	芝 ci	tsi

{字} (1572 頃)

主な用例は、以下のとおりである。

- 足止 (つち、土) ○密集 (みち、道) ○即加撒 (ちかさ、近) ○谷只 (くち、口)
○窟之 (くち、口)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ち 子	tʃi	c 'hi, chi	ci'	趾 ci	tsi
止	tʃi	c 'hi, chi	ci'	趾 ci	tsi
集	tsiei	çie, ça	ccip	cip	tsi
即	tsiei	çie	☆	☆	tsi
其	k 'i	ki	☆	☆	ʃi
宅	tʃai	ç 'e, çe	to'	thaik	tsi
只	tʃi	chi	cir?	☆	tsi
之	tʃi	chi	ci'	芝 ci	tsi

{使3} (1579)

主な用例は、以下のとおりである。

- 足止 (つち、土) ○密集 (みち、道) ○即加撒 (ちかさ、近) ○谷只 (くち、口)
○窟之 (くち、口)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の

『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ち 止	tʃi	c 'hi, chi	ci'	趾 ci	tsi
集	tsiei	çie, ça	ccip	cip	tsi
即	tsiei	çie	☆	☆	tsi
其	k 'i	ki	☆	☆	ʃi
宅	tʃai	ç 'e, çe	to'	thaik	tsi
只	tʃi	chi	cir?	☆	tsi
之	tʃi	chi	ci'	芝 ci	tsi

{浦} (1597)

○ちはなれそろて (地離れ揃て) ○みち (道) ○かなそめはつまき (金染め鉢巻)

「はつまき」は「ち」と「つ」との区別が不分明になっていた (あるいは、揺れていた) ことを示す例かと思われる。今回は扱わなかったが、用例を検討していくと、「つ」も似たような様相を呈していることがわかる。

(2) */-ita/

{翻} (1501)

○osi-cja (下) ○osi-cja (舌)

{館} (16C 前半?)

○阿者 (あした、明日) ○乞太 (きた、北)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
た 者	ʃie	che	cja	藉 cja	ʃa
大	ta, tai	ta, t' o, to, toi	tta', ttai', thai', thoa	☆	ta

「きた」は口蓋化・破擦音化を蒙るはずの音環境にあるのに、そうはなっていない。({館}に「琉球語」ではなく)「日本語」が収録された可能性が高い。以下、同じである。

{使1} (1534)

○乞太 (きた、北)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして

示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
た 大	ta, tai	ta, t' o, to, toi	tta', ttai', thai', thoa	☆	ta

{かた} (1543)

○いたるまで (到るまで)

{添} (1546)

○いちやちやけらへわちへ (板門造へはちへ)

「いた」が「いちや」と仮名表記された初めての例ではないかと思われる。

ところで、現代語の「板」は[?ita]であって破擦音化していない形となっている。どこかで再変化が起こったらしい。

{使2} (1561)

○一借沙 (いたさ、痛さ) ○阿者 (あした、明日)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
た 借	tsie	çie, cha	☆	chja	ʃa
者	ʃie	che	cja	cja	ʃa

{字} (1572 頃)

○乞大 (きた、北) ○一借沙 (いたさ、痛さ) ○阿者 (あした、明日)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
た 大	ta, tai	ta, t' o, to, t oi	tta', ttai', thai', thoa	☆	ta
借	tsie	çie, cha	☆	chja	ʃa
者	ʃie	che	cja	cja	ʃa

{使3} (1579)

○一借沙 (いたさ、痛さ) ○阿者 (あした、明日)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
た借	tsie	cie, cha	☆	chja	tʃa
者	tʃie	che	cja	cja	tʃa

{浦} (1597)

○御いちやわりハ (御労りは)

(3) */di/

{館} (16C前半?)

主な用例は、以下のとおりである。

○看失 (かぢ、舵) ○定稿 (ぢんかう、沈香)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ぢ失	tʃiəi	xe, xi, ie	si', sir?	矢 si	dzi
ぢん定	tiəŋ	tim	tjəŋ, ttjəŋ	碇 tjəŋ	dziŋ, dzin

{石東} (1522)

○ち金丸 (冶金丸)

{石西} (1522)

○かきのはなち (垣花地)

{おも1} (1531)

○ひぢめわちへ (治めわちへ) ○やぢよ (八千代) ○はぢめいくさ (初め軍)

「はぢめ」の表記は、「じ」と「ぢ」との区別がなくなっていたことを示すものとして注目される。

{使1} (1534)

主な用例は、以下のとおりである。

○看失 (かぢ、舵)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして

示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ち 失	ʃɪəi	xe, xi, ie	si', sir?	矢 si	ɬi

{田4} (1541)

○せちあらとミか (勢治荒富が)

{添} (1546)

○いちやちやけらへわちへ (板門造らへわちへ) ○すゑつきの御ちやう (添継ぎの御門)

{やら} (1554)

○ちかため (地固め) ○御せちの (御靈力の)

{使2} (1561)

主な用例は、以下のとおりである。

○看失 (かぢ、舵)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ち 失	ʃɪəi	xe, xi, ie	si', sir?	矢 si	dzi

{田9} (1563)

○せちあらとミかひき (勢治荒富が引き)

{使3} (1579)

○看失 (かぢ、舵)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。合わせて推定される音価も示すことにする。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
ち 失	ʃɪəi	xe, xi, ie	si', sir?	矢 si	dzi

{浦} (1597)

○あちへ (按司部) ○世のちに (世の頂に)

(4) */-ida/

{おも1} (1531)

○せちだか (セチ高)

{使1} (1534)

○分達里 (ひだり、左)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
だ 達	ta	t' a, ta	thar?, ttar?	闌 tar	da

この用例からは、以下の{使2}{字}{使3}も同じであるが、現代語の「左」[çiɖaji]/hizja' i/に到る口蓋化・破擦音化の兆しは読み取れない。

仮名資料でも同様のことが窺い知れ、「-ita」と「-ida」との口蓋化・破擦音化が必ずしも同時並行的ではなかったらしいことがわかる。

{添} (1546)

○御石かきつみ申候あひたハ (御石垣積み申候間は)

{使2} (1561)

○分達里 (ひだり、左)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
だ 達	ta	t' a, ta	thar?, ttar?	闌 tar	da

{字} (1572 頃)

○分達里 (ひだり、左)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
だ 達	ta	t' a, ta	thar?, ttar?	闌 tar	da

{使3} (1579)

○分達里 (ひだり、左)

この項目に相当する音訳字は以下のとおりである。音価推定のために、それぞれの音訳字の

『中原音韻』・『西儒耳目資』・『東国正韻』・『訓蒙字会』における「音」とともに一覧表にして示す。

音訳字	中原音韻	西儒耳目資	東国正韻	訓蒙字会	推定音価
だ 達	ta	t'a, ta	thar?, ttar?	闌 tar	da

以上をまとめると、以下のようなになる。

口蓋化と破擦音化のまとめ (推定される音価)

	翻 1501	玉 1501	館 16C 前半	石 東 1522	石 西 1522	田1 1523	崇 1527	おも1 1531	使 1 1534	田2 1536	田3 1537	田4 1541
ti	tsi	ti, tsi	ti, tsi tʃi	*	tsi, tʃi	*	*	tsi, tʃi	tsi, tʃi	*	*	tsi, tʃi i
-ita	-itsa	*	-iʃa	*	*	*	*	*	(-ita)	*	*	*
di	*	*	ɖi	ɖi	ɖi	*	*	ɖi	ɖi	*	*	ɖi
-ida	*	*	*	*	*	*	*	-ida	-ida	*	*	*

	かた 1543	田5 1545	添 1546	田6 1551	や ら 1554	田7 1560	使2 1561	田8 1562	田9 1563	字 1572 頃	使3 1579	田10 1593	浦 1597
ti	tsi, tʃi	*	tsi, tʃi	*	tsi, tʃi	*	tsi, tʃi	*	*	tsi	tsi, tʃi	*	tsi, tʃi
-ita	(-ita)	*	-iʃa	*	*	*	-iʃa	*	*	-iʃa	-iʃa	*	-iʃa
di	*	*	ɖi	*	ɖi	*	ɖi	*	ɖi	*	ɖi	*	ɖi
-ida	*	*	-ida	*	*	*	-ida	*	*	-ida	-ida	*	*

*は、用例ナシを示す。

参考文献

- 多和田眞一郎 (2002) 「15世紀の沖縄語 (音声・音韻) —口蓋化・破擦音化/有声子音の前の鼻音—」 『広島大学留学生センター紀要』 第12号
- (2001) 「沖縄語の音声・音韻の変化過程」 『広島大学留学生センター紀要』 第11号
- (1998) 『沖縄語漢字資料の研究』 溪水社
- (1997) 『外国資料を中心とする沖縄語の音声・音韻に関する歴史的研究』 武蔵野書院